

| 令和元年度第6回奈良市総合計画審議会会議録 | | | |
|---|---|---|------------|
| 開催日時 | 令和2年1月29日（水）午前9時から午前11時まで | | |
| 開催場所 | 奈良市役所北棟2階第16会議室 | | |
| 出席者 | 委員 | 伊藤忠通会長、山下副会長、伊藤隆司委員、伊藤俊子委員、大窪委員、尾上委員、清水委員、西尾委員、山本委員【9人出席】 | |
| | 事務局 | 総合計画策定委員会委員、総合政策課職員 | |
| 開催形態 | 公開（傍聴人7人） | 担当課 | 総合政策部総合政策課 |
| 議題 又は 案件 | 1 奈良市第5次総合計画「推進方針」各論（第2章「しごとづくり」、第3章「くらしづくり」、第5章「行財政運営」）について | | |
| 決定又は 取り纏め 事項 | 1 奈良市第5次総合計画「推進方針」各論（第2章「しごとづくり」、第3章「くらしづくり」①～③）に関する審議を行い、各委員から意見が出された。（第3章④～⑧、第5章は審議未了のため次回審議会へ持ち越した。） | | |
| 議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等 | | | |
| <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局より、出席委員は9名。梅林委員、大方委員が欠席。 ・ 伊藤会長より、今回は、第2章「しごとづくり」、第3章「くらしづくり」、第5章「行財政運営」の話となる。事務局から前回の意見をまとめたものを頂いているので、説明をお願いします。 ・ 事務局より説明。 <p>2 奈良市第5次総合計画「推進方針」各論（第2章「しごとづくり」）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局より説明。 ・ 伊藤会長より、施策においては多くの方向性を示している。漏れている視点はないか、また、指標の問題等々、委員よりご意見を賜りたいと思う。 ・ 清水委員より、宿泊率について、色々な政策をとっているにもかかわらず落ち込んでいる。これから上げるためにどういう手立てを考えられているか。 ・ 観光経済部長より、宿泊率を上げる施策については、滞在時間を延ばしていく取組が一番重要と考えている。奈良市独特のメニュー、ツアーや体験を作って、奈良に来ていただく取組をしっかりと進めていかなければならない。例えば外国人であれば、全国的には、自然や文化施設や食事に対するニーズが高いというデータはあるが、実際奈良でのニーズに合致するものは何かというところをしっかりと調査しながら、それに合ったメニューを作っていくことが必要だと思っている。 | | | |

尾上委員より、まず観光について、宿泊率を上げることは非常に良い取組と思う。外国人の観光客数の増加という意味で、もう少し海外に対しての広報、打ち出し方を考えたほうがいい。奈良の人は外にPRするのが下手という話もあるが、海外に対して奈良に泊まる意味、文化的な魅力が非常にあるということをしてPRすることが宿泊につながると感じる。また、たくさん来てもらうだけでなく、お金を使ってもらおうというところがポイントかと思う。起業家育成について、起業した後の育成については、起業家育成のサイクルを構築することはできていると思うが、大阪の起業家たちは奈良で起業するメリットがないと言う。30分で大阪に出られるし、大阪のほうが情報もあるし、お金も調達しやすい。もちろん仕事もたくさんある。奈良で起業したとしても、売上が上がってくれば、大阪に向かうという傾向もあるので、奈良の中で起業すればどれだけメリットがあるのかを打ち出していかなければ、その後続く雇用も生まれてこない。特に若者の雇用ということで、企業はあると思うが、若者に魅力的に映る企業、若者が働く企業が奈良の中には少ない。若者に人気がある企業としてITやベンチャー上場企業などが例に挙げられると思うので、そのような企業の誘致や、海外の大手企業を奈良に誘致するのもひとつプラスになると思う。企業を誘致するにしても、他のところと税制が同じであれば何のメリットがあるのかと言われるので、例えば法人市民税を優遇したり、特区を作って、そこで起業した人に対して税を優遇したりといった政策を出せば、集まる理由も出てくるのではないかと。あとは、産学連携で、奈良先端大学など新しい技術を持っているところとの連携で起業することも考えられてはどうか。技術のあるところに起業家が集まる。誘致ではないが、新しい産業を生み出すことを考えられたほうがよい。起業するための下地を作ることが必要になってくる。あと、農林水産について、地産地消はとても良いことだと思うが、作ったものを色々なところに、良い価格で出すということが課題になる。新潟のお米や関サバのように今後はブランディングが大事になってくると思う。

観光経済部長より、外国人へのPRについて、現在、観光センターにて、案内所に来られた外国人の方にツアーを紹介して実際に行ってもらっている。奈良のゴールデンルートだけではなく、それ以外のところも紹介しながら、アンケートを取って、何が求められているのかを調査しているところ。また、フランスのファミトリップを進めているところである。また、マリオットホテルのように富裕層を狙うのはひとつの考え方としてあるかと思う。起業家支援について、今まで幅広い起業家支援や企業誘致が十分ではなかったという思いがあるので、昨年くらいからしっかり取り組み始めている。他の市町村と比べ、なぜ奈良かという点では、IT企業だと、交通は不便だがインターネットがつながっていれば仕事ができるということも確かにあるし、そこへ住みながらITの事業を展開していくこともあると思っている。奈良だからこその特徴を生かしながら、そこで起業してもらおうとも考えているし、企業誘致における税制優遇も確かにあると思う。今、インセンティブ等も考えながら進めている。企業が何を求められているかもしっかり把握しながら、前へ進んでいきたい。農林については、奈良市はお

茶やイチゴをPRしているが、全国どこでもされており差別化が難しいところもある。12月から、非常に粒の大きい「珠姫」というイチゴを新しく奈良県が出しているので、PRをしっかりとしていかなければならないと思っている。

- ・ 西尾委員より、観光交流の促進について、施策の方向性で、例えば「観光資源の魅力を引き出す」「積極的に情報発信していく」「奈良らしいテーマのお店」と書かれている。言葉で言うのは易くても実践するのは難しいのが実情と思う。そういう意味で、センスも知識も専門性も必要になってくる。誰がどのように、どんな内容でやっていくのかというイメージはあるのかどうか、お聞きしたい。観光資源の魅力を引き出すときに、具体的に誰がどのようにそれをやるのかというイメージである。
- ・ 観光経済部長より、奈良市にはたくさん文化施設や自然があり、欧米の人はそういったものが好きだというのは分かっているが、どんな商品を作っていくかについても調査をしているところである。観光協会と一緒に事業を展開しているので、連携しながら具体的なツアーや体験の商品を作っていきたい。
- ・ 大窪委員より、観光交流の促進について、現状と課題の2つ目のところに、「奈良県や他市町村をはじめ」と書いているが、他府県との連携も視野に入れていくことが、奈良をさらに多様に楽しんでいただくために必要ではないか。奈良市の方針として他府県が入っていないのかもしれないが、実際は入れていかなければいけない。大きな目標として滞在時間を延ばしたいのはもっともなことで、その指標として宿泊客数を入れているが、宿泊にこだわる理由はそこまで強くないのではという気がする。もっと奈良を長く楽しんでいただくことが大事で、結果として宿泊につながる。もし観光滞在時間という指標で見ることができれば、取りこぼしている努力をきちんと拾える可能性があるため、観光滞在時間で見る考え方も、細かい取組を評価する上で必要かと思う。2番目の商工・サービス業の活性化は、現状と課題の一番下に「職人が育んできた工芸の技術や精神」とあって、ここはまさに歴史文化都市である奈良の特性を反映していると思うので、職人や工芸というキーワードを考慮したマーケティングに取り組んでいくことで、他ではできないことができるのではないかと。3つ目の農林業の振興に関しては、ブランディングがものすごく大事だと思う。特に奈良の特徴としては、近郊農業、茶やイチゴ以外にも細かく見ていくと、京都の京野菜みたいな形で奈良独自の近郊農業産出物があると思うので、それを丁寧に拾ってあげることも特性をアピールする上で重要である。指標についても、2つ挙がっているが、農業生産の効率を見ていくことで、近郊で数少ないブランディングに直結する農業を営んでいる方々の努力が拾えるとよい。最後に、雇用・労働環境の充実、指標のところは全体の就業率があってしかるべきで、絶対比較はできないが相対比較はできると思うので、逆に就業率が入っていない理由があれば教えていただきたい。
- ・ 観光経済部長より、観光で他府県との連携というご意見について、確かにそういうところもあると思う。滞在時間を延ばすために広域的に観光をしていただくのが大事である。今、奈良市だけではなく、田原本町、明日香村、吉野町など奈良

県内の広域観光を進めるべく他市と連携して取り組んでいる。例えば海外から業者を招いて、奈良の良さをPRしてもらい、どういうツアーができるか、どこを見てもらうかということも始めている。まずは奈良県の広域的なところから取り組んでいきたい。産業の工芸についても、良いものがあるというだけでなく、それをしっかり売ることに取り組まなければならない。担い手になってくれる人が食べていけるのも重要である。奈良には赤膚焼、一刀彫という工芸もあるので、それを継承していくには、しっかり売って、生計を立てられ、後継者を作っていくことが大事である。また、他の野菜ということでは、確かに大和まななどを作っているところもあるので、そこに光を当てていくことは重要だと思う。最後に就業率について、確かに就業率を掲げてはどうかという意見もあると思うが、今、女性就業において色々な取組をする中で、例えばイオンモールで相談会等を行って就業者数を把握しているので、指標を就業者数にした。

- ・ 伊藤隆司委員より、奈良もホテルが増えているが、それ以上に大阪、京都の宿泊施設が増えている中で、特に大阪、京都で価格競争が起こっており、宿泊価格が下がって、お客様にとって利用しやすい背景がある。そのような中、京都・大阪にアクセスがよい奈良市ということで、日帰り客から宿泊に結びつけるのは並大抵ではないと実感している。2025年に12.1%という数字が挙がっているが、逆に今より悪化するのではないかと懸念している。その中で、やはり奈良は観光都市であるので、先ほどから何度も出ているように、滞在時間を延ばして宿泊に結びつけるのが本筋とは思いますが、もう少し考え方の幅を広く持って、奈良に泊まっていただくきっかけとして、MICE事業や大会誘致など、既に奈良県や奈良市さんも活動していただいていると思う。そのような大会の誘致、さらには昨今、スポーツの大会があるたびに盛り上がりがあり、特に学生のスポーツ大会では、選手に親御さんや応援する方が同行されるケースもあり、そのような切り口は宿泊として非常に有効と考えている。もちろん観光という部分が本筋ではあるが、MICE事業やスポーツ大会も幅広く考えて、宿泊を伸ばしていくようお願いできたらと思う。
- ・ 観光経済部長より、MICE事業については、県で大きなコンベンションができていて、大きいMICEについては県で取り組んでもらっている。一方で、規模の小さいMICEは観光協会のほうで取り組んでいる。今後も役割を分担しながら進めていきたい。スポーツについては、奈良マラソンで非常にたくさんの方が来られている。それによって宿泊を伸ばす考え方はあると思う。今年、観光協会では、ウォーキングで100名以上の方を招聘して、奈良に泊まっていただく取組を始めている。そのように幅広く宿泊客を確保していくことが大事だと考えている。
- ・ 清水委員より、ゼロエミッションの会合で、紙おむつのリサイクル工場を人口の多い奈良市に誘致してくれないかという話があった。奈良市のごみの現状を見ると、最近大量に出ているのが紙おむつである。今は燃やしているが、プラスチックの塊であり、将来的にはパリ協定での二酸化炭素の排出削減のことから、燃や

すことにも抑制がかかり、できなくなる。そうなると、紙おむつは重大なネックになる。例えばユニ・チャームにはリサイクル工場がある。奈良市に立地できるかどうか分からないが、エコシティー、再生可能エネルギーを考えてはどうか。それから、東部山間地域ではスローフードなどで、ゆったりと滞在しながら周れるような環境の視点での観光もぜひ考えていただきたい。例えば、真庭市にはバイオマスタウンがあり、それを見に全国からいろんな人が来ている。そういう視点もぜひ考えていただきたい。また、奈良一刀彫のひな人形は東京ではとても人気がある。都心はマンションが狭いので大きなひな人形が飾れず、一刀彫のひな壇飾りなら収納も場所を取らず狭いスペースにも入るので、とてもいいということである。東京で売れば都会の人たちのニーズに合致するかもしれないので、積極的に取り組んでいただきたい。

- ・ 伊藤俊子委員より、新興地での高齢化により買物難民が増え、野菜市をやるとい
うので、どういふ農業者に頼めばいいか模索した結果、行き着いたところが若者
の農業者団体である4Hクラブである。新興地で色々な野菜を販売し、産直なの
で新鮮さが全然違う。若者たちのこういうグループが現実にあるので、支援をし
ていただければありがたい。
- ・ 観光経済部長より、若者の農業者を増やしていくことを一番に思っているので、
しっかりと進めていきたい。月ヶ瀬のものを西部の方に出してもらったりしてい
るが、葉物は結構人気がある。東部で作ってもらって、珍しい野菜があれば宣伝
していくというのは大事だと思う。
- ・ 山本委員より、観光の施策の方向性で「(3) 地域の資源を生かしたにぎわいの創
出」とあるが、にぎわいを作り出すだけでは駄目な段階になっていると思う。滞
在時間を延ばすことを考えたときに、にぎわいをいかに宿泊に結びつけていくか
が重要になる。あるいは、他の商品にどうつなげていくか戦略的に考えていく必
要がある。例えば、「ならのはるをめざして。」という東部地域の魅力を発信する
サイトがあるが、このような情報提供を広く行っていくことも重要ではあるが、
もっと対象を明確にターゲティングした上で情報提供することも必要かと思う。
奈良市の新規のホテルで、スピリチュアルな体験の場は奈良では何があるかとよ
く聞かれたりする。例えば最近では菩提配清酒祭や正暦寺やおん祭を紹介したり、
柳生にある天石立神社、その奥の一刀石にお連れしたりするが、非常にすばらし
いと言っただけ。ただ、アクセスの問題があり、特に柳生の一刀石に行く
には普通車だと厳しい。軽自動車でないといけないのは地元の人をよく知ってい
るが、新規のホテル事業者はご存知ない。そのあたりをどうしていくか。タクシ
ーといっても奈良はタクシーが少ないという問題が出てくる。にぎわいの創出の
次に、対象を明確にターゲティングした上で宿泊にどうつなげていくかという視
点がここに描かれていないかもしれないと思ったのが1点。それ以外の部分で、
商工に関わることで3つある。まず1つは、未来ビジョンの中のしごとづくりの
ところで地域の特性を生かすと言われていて、施策の方向性のところでも工芸に
ついては手厚く支援していくと書かれている。「なら工芸館での制作体験や展示等

を通じて、魅力の浸透・向上を行う」と書かれているが、それだけでは不十分と思う。例えば、3番の農林業の振興にも関わってくるが、工芸や特産品というものを施策の方向性の2番の起業家育成とつなげていく必要があるのではないかと。それこそが、地域の特性を生かした奈良らしいしごとづくりになってくると思う。どれだけすばらしいアイデアがあっても、資金がなければ実現することはできないので、いかにそれをベンチャーキャピタルとつなげていくかが必要になってくる。なので、奈良の工芸や特産品を取り上げて、新しい展開をしていくようなスタートアップに対して優先的にベンチャーキャピタルをつなげていく仕掛けや、そういうアウトカムが明確になるような取組が必要になってくると思うのがまず1点。2つ目、政策の方向性の3番の企業誘致について、奈良県には未就労で高学歴の女性が非常に多い。企業誘致する中で、そこに女性の活躍推進をどう結びつけていくのか。それは④(1)の多様な働き方の実現につながると思う。分けて書かれているが、企業誘致と多様な働き方の実現をつなげていくという視点も欲しいというのが2つ目。3つ目は、中心市街地の利便を良くして、長期的視点に立った不動産価値をいかに向上させていくかという戦略的な仕掛けが必要だと思う。これは行政だけでやるのは絶対無理なので、持続可能な取組には市民参画を促すしかない。市民と協働する中で、いかに持続可能的に不動産価値を向上していくのか、支援する施策も必要と思う。

- ・ 伊藤会長より、商工サービス業の活性化のところで、先ほど企業誘致の話があったが、どのような企業を誘致するかをはっきりさせるということ。それと、奈良市が持っているいろいろなリソースを考えると、奈良には文化がたくさんあるから、クリエイティブ産業に若者の起業の可能性がある。そのために、奈良市でどのようなインフラ整備をするか。ハード・ソフトの面や優遇税制も含めて、そのようなところを絞っていけば可能性はあると思う。それで、指標で起業家の育成に携わる先輩起業家数がゼロであるが、実際はいるのではないかと。把握されていないか。
- ・ 観光経済部長より、何年か NARA STAR PROJECT という事業をやっているのですが、ゼロではない。
- ・ 伊藤会長より、それなら数字を入れておけばと思う。次に、農林業だが、農業と林業を分けて考えると、農業はブランド形成や付加価値を高めていく可能性が高いが、林業は奈良市でどのような位置付けにあるのか。ここでは「農林業を含めた生産基盤の整備」と書いてあるが、林業の生産性というのは、実際に林業として材をマーケットに出していくことはほとんどないと思う。ということは、奈良市で林野をどのように捉えるかということ、多分公益的機能を維持することだと思う。恐らくそれで指標のところ「森林経営管理に関する意向調査を行った面積」とあるが、これでは曖昧なので、もっと踏み込んで、管理されている林野面積を増やしていくことが必要。増やすためには、守っていくための人も要るし、仕事も出てくる。奈良市では森林保全をして、環境保全に力を入れていく。林業として成立させようとするのは相当難しいと思う。奈良県全体の話ではあるが、その

あたりを考えていただきたい。それから、さとやま民泊事業連携協定先による東部地域への誘客数という指標があがっており、宿泊以外に体験、食事のみの利用者も含むとあって500という目標値があるが、これは具体的にどう把握されるのか。

- ・ 市民部長より、さとやま民泊の取組は昨年秋からスタートした状態だが、旅行会社等を通じて申し込みを受け付けているので、そこで実際に申し込みを頂いた数は把握できる。
- ・ 伊藤会長より、宿泊は分かるが、レストランや体験をした人をきちんと把握する方法があるのか。飲食店から今日は何人お客様があったと報告してもらうのか。
- ・ 市民部長より、一般的に利用されている方もおられるから、全部のお客様をカウントすることは意図が違う。
- ・ 伊藤会長より、指標にして政策を考えるのであれば、客観的なデータでないといけない。不安定なデータを使っていると政策をとりにくいと思うので、検討していただきたい。
- ・ 伊藤会長より、第2章「しごとづくり」については以上とする。次に3章「くらしづくり」の説明をお願いします。

3 奈良市第5次総合計画「推進方針」各論（第3章「くらしづくり」①社会教育の推進、②文化遺産の保護と継承、③文化・スポーツの振興）について

- ・ 事務局より説明。
- ・ 大窪委員より、①社会教育の推進について、公民館と図書館に限って記述されているが、それ以外は評価しないのか。例えば学校での社会教育の一環として、市立の図書館、公民館以外の文化施設を利用されているのであれば、それも指標に加えることで取組の進捗が目に見えると思った。それと、前の項目で出ていた、なら工芸館はどこでキャッチアップしているのか気になった。②の文化遺産の保護と継承について、奈良の独自性、特性として、一つは平城宮跡をはじめとする復元文化財が奈良の特徴だと考える。未指定、未登録の文化財はもちろんだが、今後復元を進めていくことを考えると、復元文化財としての平城宮跡をはじめとする要素を文化遺産の保護と継承の中に明文化することが必要と思う。あわせて課題の3つ目の計画的に整備をしていくという中で、特に首里城の火災など、復元文化財の災害対策が通常の建築基準法の範囲でしか行われていないのが一つの課題と思う。喫緊の課題として復元文化財の災害対策をどこかにきちんと書いておくべきである。指標の3つ目に「普及活用事業への参加者数」を書いているが、具体的にどういう事業を拾っていくのか定義を明記しておかないと、考え次第で増減できるので工夫していただきたい。③文化・スポーツの振興については、市民文化や都市文化を振興していくという、キーワードとしてはすばらしいと思ったが、具体的に何を振興していくのか見えにくい。指標では文化施設の利用者数になっているが、それだけではなく、事業の数、市民文化の振興あるいは都市文化の振興に資する事業をどれだけ実施しているかも書けると思うので、できれ

ば中身の具体化、取組事業の定義が必要。

- ・ 教育部次長より、社会教育の推進のところで、公民館以外の学校での文化活動等、地域との関わりも重要とご指摘いただき、確かにそのとおりと認識している。公民館以外にも学校を用いた地域との関わりは、それぞれの学校、施設で細やかに行っている。ただ、それを指標化することについては少し検討したい。学校での文化活動は、それぞれ地域の特性を持って学校で取組をしていただいていると認識しているので、全体としてどう把握するかを考慮すべきであると思っている。もう一つ、なら工芸館等、いわゆる観光施設との連携もあるのかというご指摘だが、確かにそのとおりである。私どもの社会教育は文化財とも関わってくるが、工芸館等で伝統文化をしっかりと伝えて、それを観光の素材として使う半面、社会的な教育面もあると思う。その関係は密接とまではまだ言えないが、連携をしていかなければならないと考えている。文化遺産の保護と継承の部分において、奈良の独自性ということで平城宮跡その他、例えば興福寺の中金堂もそうだが、復元されていく文化財の価値化についても踏み込むべきというご指摘である。これも平城宮跡自体が既に特別史跡という価値を持っている中で、その内容をいかに知っていただくか。その一つの手段として復元されていく建物等がある。建物以外についても、例えば正倉院の宝物を普段から見ていただくための取組が現在行われている。それは、現在の一級の技術を用いて復元等が行われているので、将来的にはそれ自体が価値を持つものになると考えている。しかし、現在は現在のものという取扱いであるので、それを指標化するというところは難しい。それ自体は非常に価値を持っていると思っているが、それをどう取り組んでいくかについては課題があると判断している。もう一つ、「普及活用事業への参加者数」について、具体的に定義しておく必要があるというお話である。中でも富雄丸山古墳をはじめとする発掘調査体験に主に取り組んでいる。加えて、資料の展示を行っている資料保存館等の入館者数、この辺のところ大きいと思うが、そういった体験というところに特化すべきか、それとも普及活動全般で参加者数を捉えるのがいいのか、これについては少し検討したい。
- ・ 大窪委員より、文化遺産の項目だが、復元文化遺産を指標化するのが私の希望ではなく、復元文化遺産の記述をきちんとすることが、奈良の特性を生かす上で不可欠ではないかと思うので、ぜひ参考にしてほしい。
- ・ 伊藤会長より、社会教育は時代の変化の中で変わってきていると思う。その中で特に公民館、図書館を挙げているが、公民館も図書館もかつての機能とは大分変わっている。ここでは拠点という言葉が使われているが、子どもから若者、高齢者、多世代が公民館や図書館という場所をどのように活用して、良いまちづくりにつながっていくのか。社会教育のあり方について教育長からコメントをお願いしたい。
- ・ 教育長より、確かに社会教育のあり方は変わってきている。ただ、学校教育の中から申し上げると、今、奈良市は特徴ある教育として、地域との連携に重点を置いて、学校と地域をつなぐ取組をしている。地域の方々もどんどん学校の中に入

っていただく。子どもたちも地域に出ていくときに、公民館はしっかりと活用できる場であつたらいいと思うし、地域の方々とともに活用できるような場であればと思う。ただ、課題として書かれているように、公民館自体が高齢の方々の活動場所という従来の形をそのまま踏襲していて、若者世代の利用が少ない状況にある。このあたりを今申し上げた学校教育とつなぎながら、地域の中で活用できる、あるいは地域の方々と子どもたちが一緒に活動できる場になっていけばよいとも考えている。

- ・ 伊藤会長より、私もそれに共感する。そういう意味でここにある指標の1番目の公民館での事業件数は分かるが、あとの貸出冊数とか図書館利用登録者数にはアクティビティが出てこない。実施しているイベントでもいいが、公民館なり図書館の利用の状態を指標化できれば、施策の活動状況が把握できると思う。もう1点、文化財に関して、保存するとなるとかなりコストがかかる。この維持費用を文化財に指定された所有者が負担するのか、市が支援するのか、その問題も一方で考えておかなければならないと思う。それと、指定する文化財とか登録する文化財の潜在件数のようなものは把握されているか。全然分かっていないものがたくさんあるということか。
- ・ 教育部次長より、奈良の特色として、文化財の数が他府県に比べると非常に多いというのは皆さんご存知と思う。潜在的な数というのは、悉皆調査といって全域を全て調査して把握する作業が必要であるが、まだ完全にそこまで至っていないのが現状である。なので、現在、奈良市の中に文化財と呼べるものがいくつあるかはなかなか把握できないところで、非常に多くあるとしか言えない。その中で地域を定めて、把握できているものの中から抽出して、いかに保存していくかという取組をしているところである。
- ・ 伊藤会長より、そのとおりでと思う。基準値があつて、目標値として5年後に50件ほど増やすとされている。その50件を増やすために、市としてどのような支援、フォローをするというところまで具体的に考えておられるのか。
- ・ 教育部次長より、現在、文化財調査を継続して行っており、全域を一気に網羅できないので、ある程度の地域、それと文化財の種類を定めて調査を行い、その中で価値があると判断されるものについて、専門の先生方のご意見を頂きながら指定を行い、指定したものに関して補助金を出すなどの対策をとっているのが実情である。
- ・ 西尾委員より、文化財の活用のところで「市民文化の向上に寄与する」と書いてある。市民の誇りになったりアイデンティティになったりするものと思うが、その仕掛けが難しい。文化財というと取っ付きにくい、専門性の高いものだと思うので、先ほど文化財の調査という話があつたが、そのプロセスの中で、全国のいくつかのミュージアムが取り組んでいる市民学芸員や市民リサーチャー制度のような呼び方で、調査のプロセス、あるいは企画して展覧会をするプロセスの中へ市民に参加してもらおうことを考えてほしい。奈良県が正倉院の宝物ではなく建物自体を平城宮跡に再現するというニュースについて、ミュージアム論の中では現

地保存、それが地域のアイデンティティになっていくことが重要視されている中で、外にしか向けられない視点、観光資源としての視点でそういうアイデアになったのだらうと思う。地域市民からすると平城宮跡にできる正倉院はどう捉えたらいいのかわからないが、だからこそ本物というか、何が自分たちにとって大切なものなのかを重要視した施策が大切だと改めて思った。もう一つは、③の施策の方向性の(1)「市民文化と都市文化の振興」の中に「文化施設の充実や文化情報の発信力強化、活動を支える人材の育成などを推進し」と書いてある。個々の活動を支える人材の育成ということで、具体的なイメージとして、地域アートマネージャーやアートコーディネーターなどといった存在の重要性を認識しているが、これはそういうことを言っているのか、あるいはもう少し幅広いボランティアのことなのか、そのあたりの具体的なイメージがあればお聞かせいただきたい。

- ・ 市民部長より、人材育成について、具体的にその活動をしていくためのアイデアを出していただいたり、あるいは監修をしていただくような、そういう方の協力の輪を広げていくのが大事なポイントかと思っている。当然それを支えていくためには、そこにご賛同いただいてご協力いただける人の輪が必要になってくるが、指標化しにくいところでもあり、具体的な取組内容を紹介しにくい部分ではあるが、地道な活動の輪を広げていく、人との関わりを大事にしていく取組を今後も展開していきたい。ボランティアも含めて取り組んでいきたいと考えている。
- ・ 尾上委員より、スポーツに関する施設の利用について、すごく使われている施設と全然使われていない施設がある。中央体育館、ならでんアリーナは、土日はほぼずっと使われている。しかし、学園前の体育館はあまり使われていないと聞く。もう少し利用者を幅広く受け入れられる施設のあり方を考えられたほうがよい。年に1回、チーム数40、選手400人、親を入れて1,000人ぐらいの大会を行っているが、奈良市の中でできる場所がなく、斑鳩町の中央体育館などを使用している。今の状態だとそれ以上のチーム数は増やせないが、これは近畿の府県から何チームかを呼んで行っている大会であり、人の動きと滞在時間もあるため、観光につながる可能性もある。もう少しスポーツのできる場所を増やされた方がいいのではないかと。練習場所も奈良市の中で取れず、取れたとしても高いので、使用が土日に偏る部分もあるかもしれないが、もう少し利用方法や、平日の利用をどうするかを考えて、スポーツ活動を展開されると良いと思う。文化施設やスポーツ施設の利用者数の目標値について、74万人、177万人と書いているが、今後増やせるのかというのが現状と思う。施設を造るよう言っているのではなく、有効な使い方を考えられてはいかかかという提案である。
- ・ 伊藤会長より、今の話を聞いて一つ思ったのは、指標は「市営スポーツ施設等利用者数」だが、稼働率はどうか。施設によって全然稼働していないところと、ほぼ100%に近い稼働率、特に土日に集中しているとのことだが、各スポーツ施設の稼働率の状況は把握されているか。
- ・ 市民部長より、手元に資料がないので具体的なご紹介はできかねるが、それぞれの稼働率は把握している。スポーツ施設と一口に言っても、地元で管理している

グラウンドレベルのものから、鴻ノ池に代表されるような県下でも有数の施設もある。この計画の中にも更新の話を書いているが、一つにはやはり施設そのものが古くなっていて、なかなか更新作業が進んでおらず、利用いただくには設備として古いという問題も抱えている。今言われたように「新しい施設を造る」という単純な話ではないことは私も理解していて、いかにそれを整理しながら更新もして、しかも稼働率も上げてというところかと思う。現状は、特に大きい施設については指定管理制度を利用している。指定管理者の選定にあたっては、提案内容を吟味して、活動の輪が広がるようなご提案を頂けるところを選んでいくつもりであるし、施設更新についても根本的に必要、不必要の判断をしながら更新していきたいと思う。

- ・ 伊藤会長より、スポーツはもちろんだが、一般の市民の健康づくり、体力づくりのための施設利用ということも考えて、そこを切り分けて考えていかれたら良いかと思う。
- ・ 山本委員より、③文化・スポーツの振興のところ、文化施設の話が市民文化と都市文化の振興という文脈で出ている。奈良市美術館は今、ミ・ナーラの中に間借りの形になっていて、ミ・ナーラになったことで周囲の環境が変化している。それは同じフロアに新しくボーリング場ができて、一つは音の問題である。静かに作品鑑賞できる環境にならない。もう一つは搬入用のエレベーターがそれまでは使えたが、改装でエレベーターが使えなくなった。搬入にも非常に影響が出ている。現状を見ると、大体ここは市民文化の活動発表の場になっていて、貸し館事業がほとんどであるが、ほかの奈良市の施設を見ると、市民文化の発表の場がほぼない。それを一手に担っているのが奈良市美術館である。こういう環境が悪化している中で、市民文化の唯一の発表の場であり、展覧会自体のレベルも高い。外部の企画者に委託してアーティストを呼んで展示をしている。これは非常に良いが、市民文化と都市文化、どちらの役割を担う建物なのかという疑問が浮かんだ。別の視点で見ると、奈良市がなぜ月数百万円のテナント料を払って奈良市美術館を持たれているかということ、恐らく防火構造になっているからだと思う。新たに建てる膨大なお金がかかるので、多少高くても家賃を払って奈良市美術館として成立している。とするなら、先ほどの文化遺産とか文化財の展示ができる施設なので、建物のスペックの面で見るとそういうものを展示すべき施設になっているが、現実にはそうになっていない。でも、今新しい取組として都市文化の領域をやらうとしているということで、迷走していると思う。他の施設もそうだが、奈良市の文化施設は再編集が必要ではないか。ここは例えば市民文化をテーマにしたところで、ここは都市文化のところ、あるいはここは市民文化と都市文化が共存しているところというように、施設自体の意味付けをもう一度考えていくべき時期に来ているのではないか。
- ・ 山下副会長より、昔、羽仁五郎さんが「都市には広場がある」と言った。広場とは集まる場所である。公民館にしても文化施設にしても、いろんな形で市民が集まってくる場所である。それを奈良市としてどのような全体像を描いているの

か、山本委員の言われたように考えないといけないと思う。教育部と市民部から別々に資料が出ているが、公民館の活用の仕方は、教育委員会が管理しているあり方が、だんだん市民活動の拠点に変わってきていると思う。学びのあり方も変わってきているし、そのときの集まる場所の問題、あるいは活動する拠点の問題を考え直してみる必要があるのではないかと。教育部と市民部とで協議が必要だろうと思う。つまり、どのページを見ても市民の参加、協力が出てくるが、そうしたときにその足場をどう作っていくかをしっかり考えながら作らないと、計画が項目だけになってしまうということを申し上げたい。市民が市民らしく生きていくためには、集まって知恵を出し合って、協力し合って生きていく、そういうまちづくりが必要なのだという哲学があって、そのためにこういう施策をやるという説明ができないと説得力を持たない。そういう意味では、縦割りのままの施策の形になっていると思う。観光についてもそうで、一つはオーバーツーリズムの問題があり、奈良らしい奈良をどう守っていくかを考えないといけない。一方で観光客にはもちろん来てほしい。京都でオーバーツーリズムが発生しているように、今の市民生活にとってどうかということを一方で考えながら、誇りに思える奈良を大事にしないといけないと思う。そう思って見たときに、文化財は教育部で、観光は観光経済部になっていて、どうなるかと思った。奈良の大事な遺産を食いつぶしたら再建がきかない。それをどう守るか、市民を説得していかないといけない。

- ・ 山本委員より、公民館や図書館や美術館などの文化施設もそうだが、今、国は小さな拠点をどんどん造っていきこうというようなことを言っていて、そこが社会教育を行ったり、福祉だけでなく市民の文化を育てていったりするような場所になりつつあるので、追々そのあたりもお話したい。
- ・ 伊藤会長より、山下副会長の発言は全般についての基本的なことなので、考えていただければと思う。それでは、くらしづくりの④番以降の福祉の分野の説明をお願いします。

4 奈良市第5次総合計画「推進方針」各論（第3章「くらしづくり」④総合的な福祉の推進、⑤障害福祉の充実、⑥高齢者福祉の充実）について

- ・ 事務局より説明。
- ・ 清水委員より、私が今従事するフードバンクから見える現状は、認知症かどうかといった区別ではなく、居場所づくりで、子どもも大人もみんなが集まる場所が多くなっている。子ども若者育成支援に関しても、ひきこもりになってしまうと、年齢を超えて中高年になってもひきこもっているもので、その人たちへの支援が必要である。高齢者、障害者、その他という区分で縦に割るのはどうかと思う。どうしても連携が必要なので、市民はみんな境がないから、横断的に見守っている施策があるとよい。また、環境の方にも関係があるが、断熱を高めるとヒートショックを防げる。ヒートショックを防げると障害を持たなくなる。そういうことで、断熱性能を高めた家が普及することが社会保障を減らすと言われている。

ぜひ横断的な支援という視点を持っていただきたい。

- ・ 伊藤俊子委員より、くらしづくりの④の施策の方向性の（１）のところに、力強い言葉で「誰ひとり取り残さない社会の実現を念頭に置き」という言葉を付けておられる。地域は高齢化がまっしぐらに進んでおり、地域の者として、地域で考えないといけない。ここで聞きしたいことは、これだけの言葉が出てきて、これをどのように地域におろしていくのか、そこが一番大事なところである。行政自らが動いていただかないといけない。たまたま私たちの地域はボランティアでやろうという意欲のある者が集まったから、今やれている。でも、そうでない地域も多くあると思うので、行政としてどのようにここに書かれたことを一つ一つ、全部でなくてもいいが、こういう形でやっていくというイメージを与えていただきたい。
- ・ 福祉部長より、総合計画ということで大きな目標を掲げた。今言われた「誰ひとり取り残さない社会の実現」というのは、国も挙げて今言っていることで、指標にも上げたが、今は高齢者、障害者、子どもと、相談の体制が全く縦割りの状況になっている。ただ、障害をお持ちの方も高齢になられ、障害をお持ちの方の親御さんも高齢になられる。ひきこもりで高齢者と、8050問題もあるので、縦割りでなくて、ここに行けば全ての相談が可能になるという相談窓口の設置を目指したいのが一つで、指標に上げた。東西南北に福祉センターがあるので、そこを拠点に、相談窓口ができることを目標にしたいというのが一つと、地域へのおろし方は、地域の方の協力を得ながら、相談窓口も設置していくし、ボランティア、民生委員、地区社協との連携をどう取るのかがまず一つの課題である。窓口を設置するだけで全て解決できるものではないと考えている。基本的な部分というのは地域の方のご協力ということになるので、どうのご協力の求め方をしていくかを考えていきたいと思っている。またいろいろなご意見をお聞かせいただきたい。
- ・ 伊藤会長より、終了予定時間になったので、次回に向けての宿題ということで問題提起が特にあれば何う。
- ・ 大窪委員より、④の総合な福祉の推進のところ、先ほど横断的というキーワードが出て、非常に重要と思う。子どもと高齢者を切り離さない福祉というのは、奈良のような伝統的な下町文化というか、自分の家の人ではないおじいちゃんに叱られるといったような、これまであったことを生かすのであれば、子どもと高齢者を切り離さない世代間交流を促進していくことで、総合的な福祉の一助になっていくのではないかと。従って、例えば指標の中に多世代間の交流事業のようなものがカウントできれば、それも奈良の取組として大きな意味を持つし、子どもと高齢者の双方にとって生きがいやメリットがあるのではないかと。あと、指標に関して、⑤の障害福祉で、障害者総合相談支援事業所を設置したりAIを活用した意思疎通支援を整備したりということは、最低限必要なことだが、これだけ見ているとできることだけ書いてあるような気がしてしまう。難しいとは思いますが、目指すべきは障害者福祉のケアがどれだけ行き届いているかが本来指標として見

たいところであるので、利用率になるのか、ただ設置するというだけではなくて、どれだけそれが生かされて行き届いているのかが分かるような指標に工夫していただきたい。⑥の高齢者福祉の充実の指標のところだが、施策の方向性の（１）については、地域包括ケアシステムを構築するために実施するいくつかの取組と対応していると思うが、（２）の将来も安心できる福祉サービス、特に介護予防や重度化を防止していくことは非常に重要な課題になっている。しかし、こちらについては指標が対応していないので、例えば健康高齢人口の割合などを当てられるのであれば、そもそもケアを必要としない人たちをいかに増やしていくかにつながっていくと思う。

- ・ 伊藤会長より、今日は時間がないので、お答えできる部分があればお答えいただいて、なければ次回までに準備していただければと思う。
- ・ 福祉部長より、指標についてはまた検討させていただきたい。
- ・ 伊藤会長より、今の大窪委員の発言の中で、介護予防の話は、指標としてはよく出てくる健康寿命を指標にしたら分かりやすいと思う。まだご意見があるかもしれないが、次回引き続き議論を行いたいと思う。
- ・ 向井副市長より、毎回貴重なご意見をありがとうございます。現状と課題、施策の方向性というのは、大体この方向で良いのかと、聞いていて思った。ただ、実際の具体的な内容はどうかといったご指摘が多かったと認識しているが、総合計画でどこまで書くのか、その下にある個別計画でどこまで書くかは少し整理が必要と思っている。大変熱心な議論をしていただいているので、少し予定どおりに進んでいないところもあるが、また今後もよろしくお願ひしたいと思う。
- ・ 伊藤会長より、本日の会議についてはこれで終了したい。どうもご協力ありがとうございました。

以上

| | |
|-----|--|
| 資 料 | <p>【資料１】奈良市第５次総合計画 推進方針 (各論) 第２章 しごとづくり 第３章 暮らしづくり 第５章 行財政運営</p> <p>【参考資料１】施策における指標一覧（第２章、第３章、第５章） 【参考資料２】施策における関連データ（第２章、第３章、第５章）</p> |
|-----|--|